

概要

人口動態統計は、出生、死亡、死産、婚姻、離婚の5つの事象を、市町に届け出された各届書から調査、把握したもので、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしています。平成20年中における本県の人口動態の概況は、次のとおりです。

(表1) 人口動態の概況

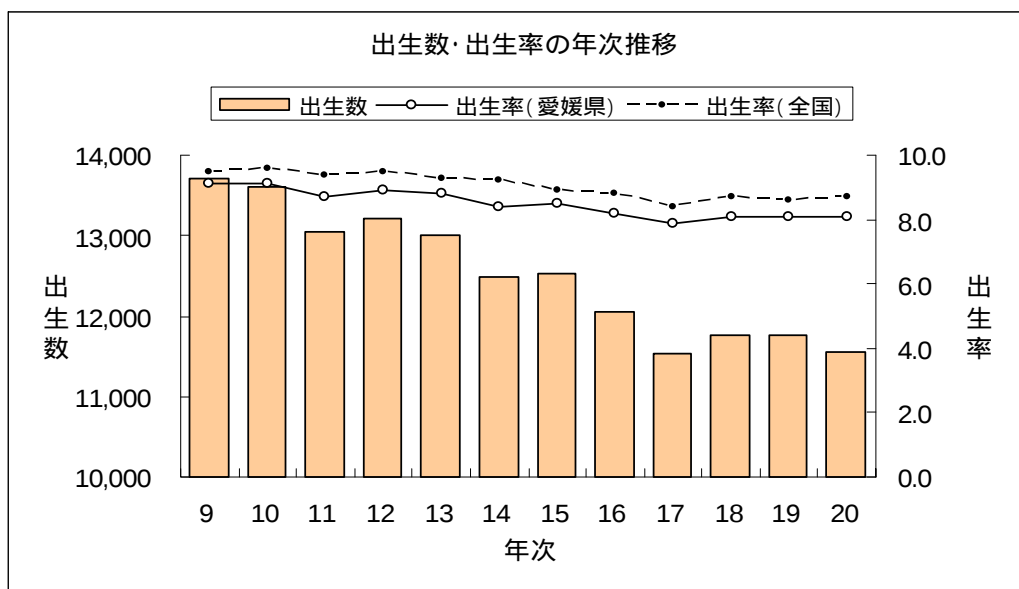
区 分	実 数			率			全国(20年)	
	平成20年	平成19年	差 引	平成20年	平成19年	差 引	実 数	率
出 生	11,561	11,753	192	8.1	8.1	-	1,091,156	8.7
死 亡	15,777	15,427	350	11.0	10.7	0.3	1,142,407	9.1
乳児死亡	16	25	9	1.4	2.1	0.7	2,798	2.6
新生児死亡	7	13	6	0.6	1.1	0.5	1,331	1.2
自 然 増 減	4,216	3,674	542	2.9	2.5	0.4	51,251	0.4
死 産	341	384	43	28.7	31.6	2.9	28,177	25.2
自然死産	138	144	6	11.6	11.9	0.3	12,625	11.3
人工死産	203	240	37	17.1	19.8	2.7	15,552	13.9
周 産 期 死 亡	45	62	17	3.9	5.3	1.4	4,720	4.3
妊娠満22週以後の死産	41	53	12	3.5	4.5	1.0	3,751	3.4
早期新生児死亡	4	9	5	0.3	0.8	0.5	969	0.9
婚 姻	7,175	7,302	127	5.0	5.1	0.1	726,106	5.8
離 婚	2,816	2,898	82	1.96	2.01	0.05	251,136	1.99

	愛媛県		全国	
	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年
合 計 特 殊 出 生 率	1.40	1.40	1.37	1.34

注1) 率: 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対, 乳児・新生児・早期新生児死亡は出生千対, 死産は出産(出生 + 死産)千対, 周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生 + 妊娠満22週以後の死産)千対である。
注2) 周産期死亡数は 妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものである。

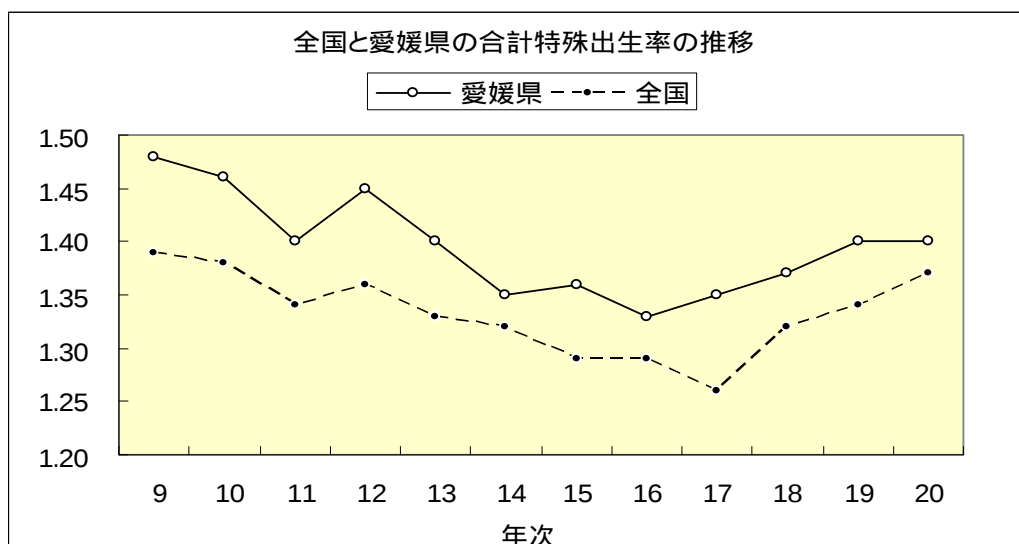
1 出生

出生数は11,561人で前年に比べて192人減少し、出生率(人口千対)は8.1で前年と同率でした。



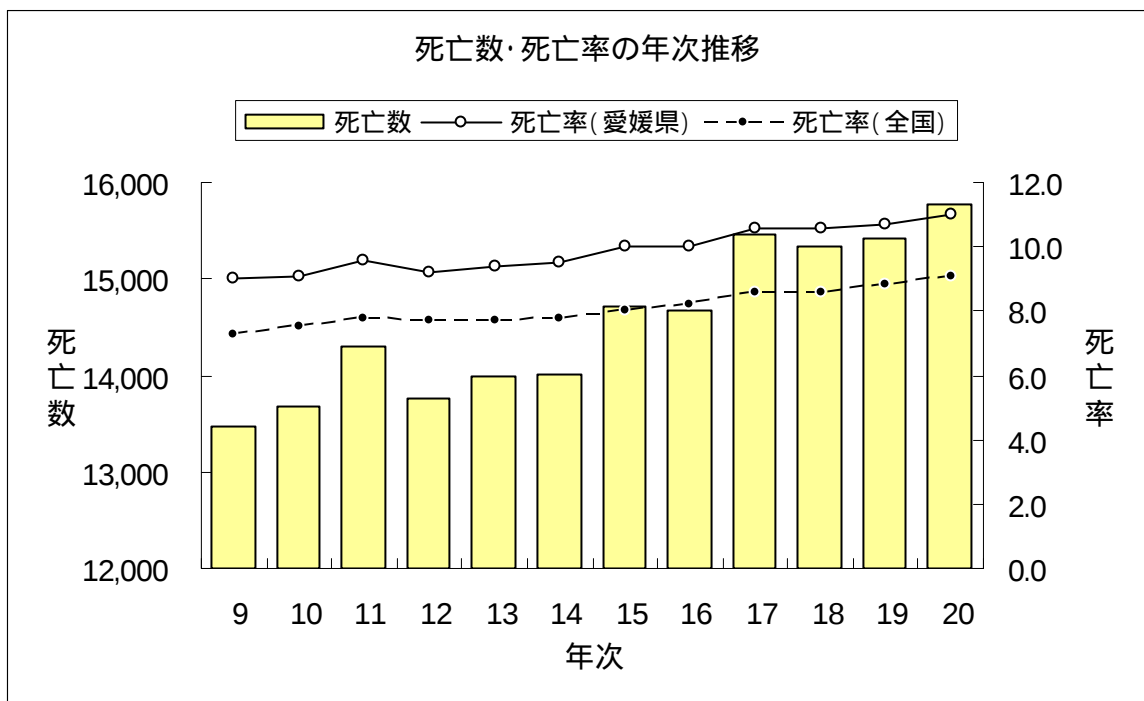
これは都道府県別の上位33番目で、全国平均に比べ0.6ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

今後も平成20年と同じ率で子供が産まれると仮定すると、一人の女性が生涯に産む子供の数の平均(平成20年の合計特殊出生率)は1.40人で、前年と同率でした。



2 死亡

平成20年中の死亡数は15,777人で、前年に比べて350人増加し、死亡率(人口千対)は11.0で前年より0.3ポイント上回りました。



これは都道府県別の上位12番目で、全国平均に比べて1.9ポイント高く、四国内では高知県、徳島県について3番目に高い率でした。

10位までの死因順位を年次別にみると、表2のとおりです。県内の上位10位までの年次別死因順位は表3のとおりで、上位3死因と死亡率(人口10万対)は、

- | | | |
|---|-------|----------------|
| 1 | 悪性新生物 | 294.7(全国272.3) |
| 2 | 心疾患 | 210.0(全国144.4) |
| 3 | 脳血管疾患 | 117.5(全国100.9) |

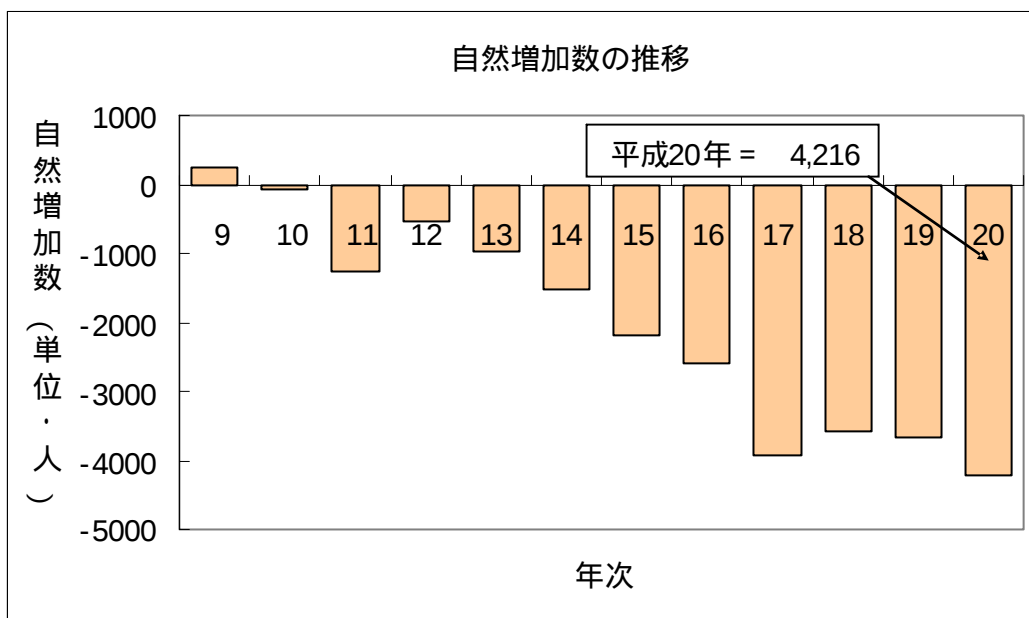
でした。

なお、「悪性新生物」による死亡を部位別、年次別にみると表4のとおりです。

3 自然増加

平成20年中の自然増加数はマイナス4,216となり、前年に比べ542人減となりました。

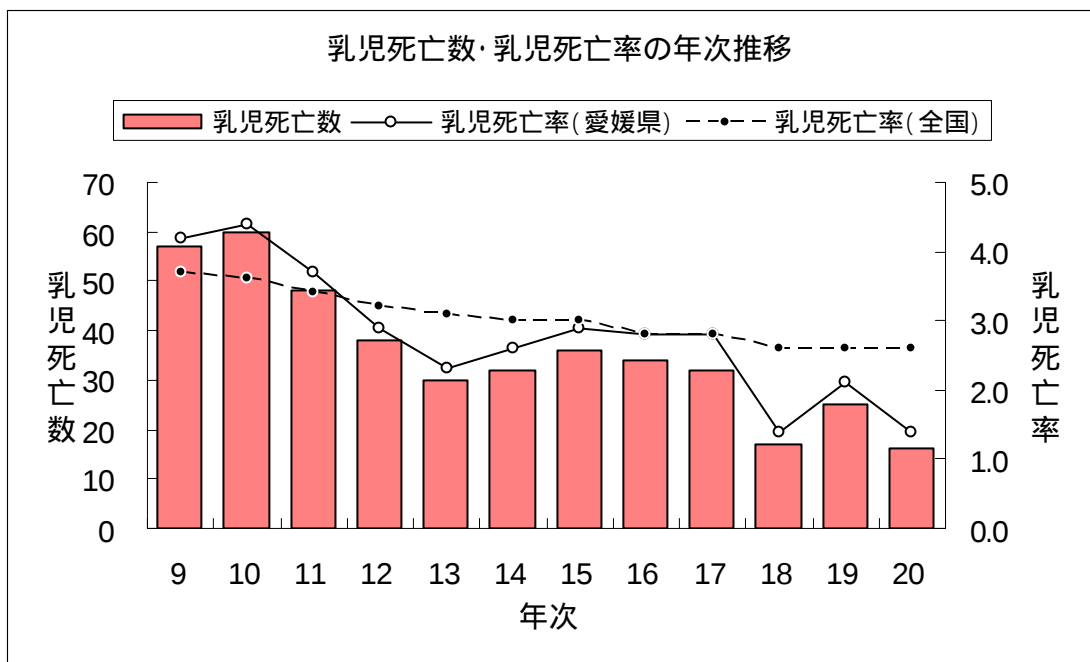
自然増加率はマイナス2.9で、前年より0.4ポイント下回りました。



これは全国平均に比べて、2.5ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

4 乳児死亡

平成20年中の乳児死亡は16人で、前年に比べて9人減少し、乳児死亡率(出生千対)は1.4で、前年より0.7ポイント下回りました。

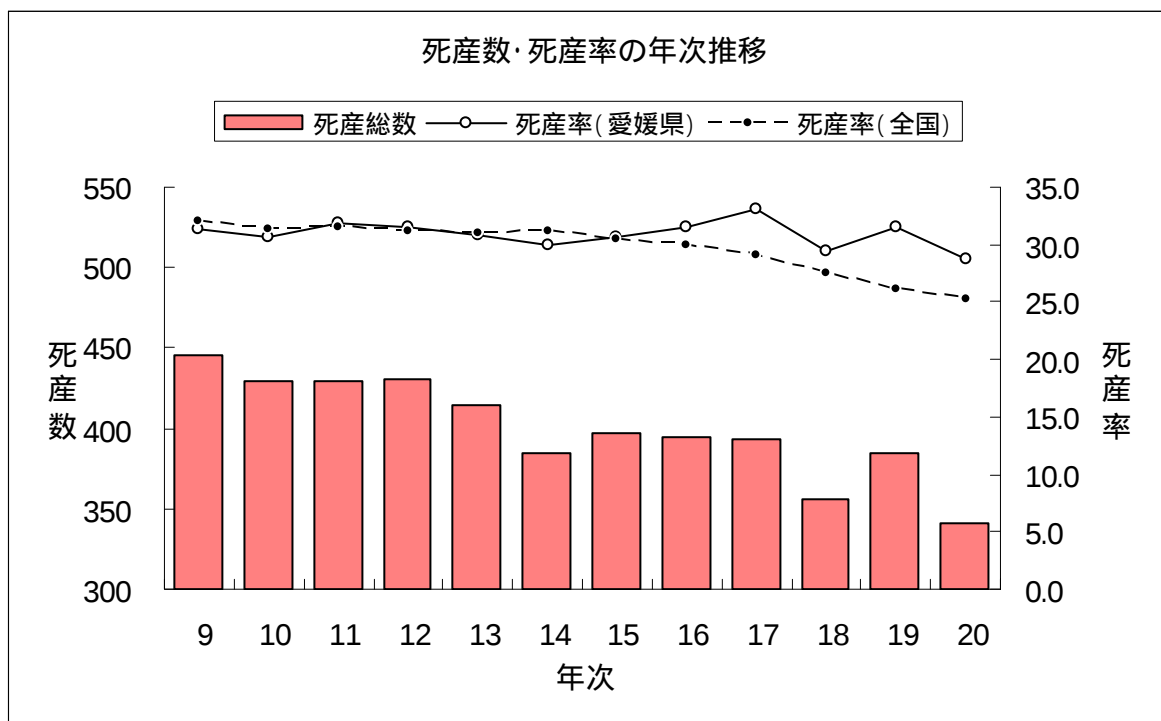


これは全国平均より1.2ポイント低く、四国内では最も低い率でした。

5 死産

死産とは妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産に区分されます。

平成20年中の死産は341胎で、前年から43胎の減少となり、死産率(出産千対)は前年を2.9ポイント下回る28.7でした。

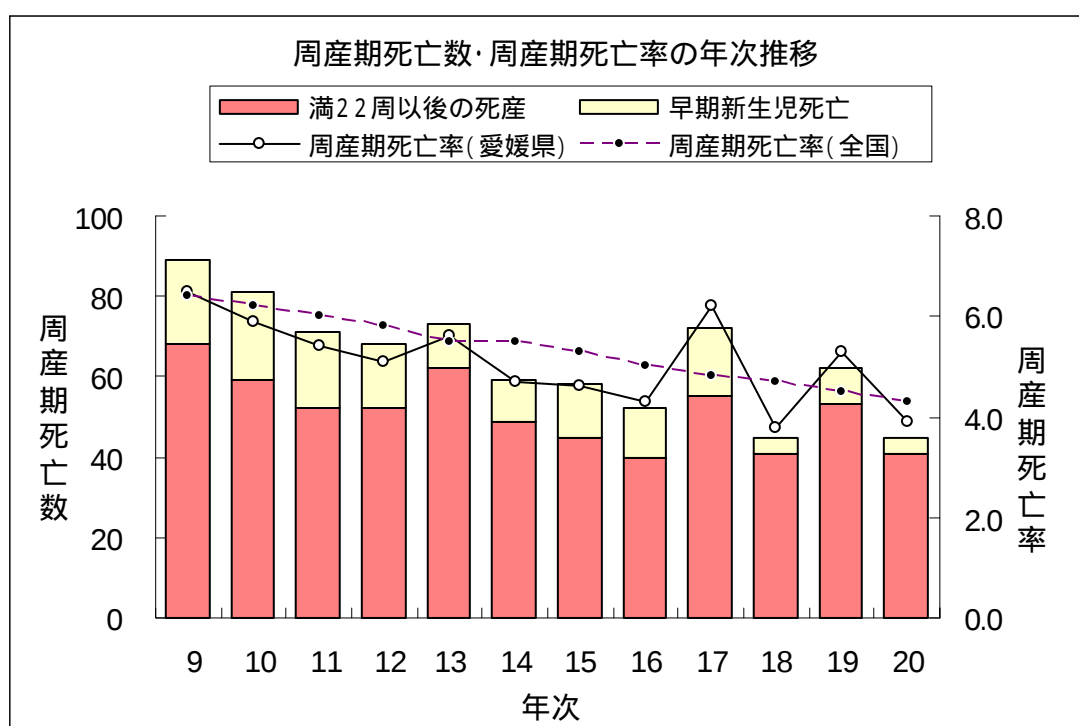


これは全国平均に比べ3.5ポイント高く、四国内では高知県について2番目に高い率でした。

6 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせて周産期死亡と
いいます。

平成20年中の周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産41胎、早期新生児死亡4
人となっています。前年に比べて、前者は12胎、後者は5人減少しました。総数では4
5件で、前年に比べ17件減少しました。



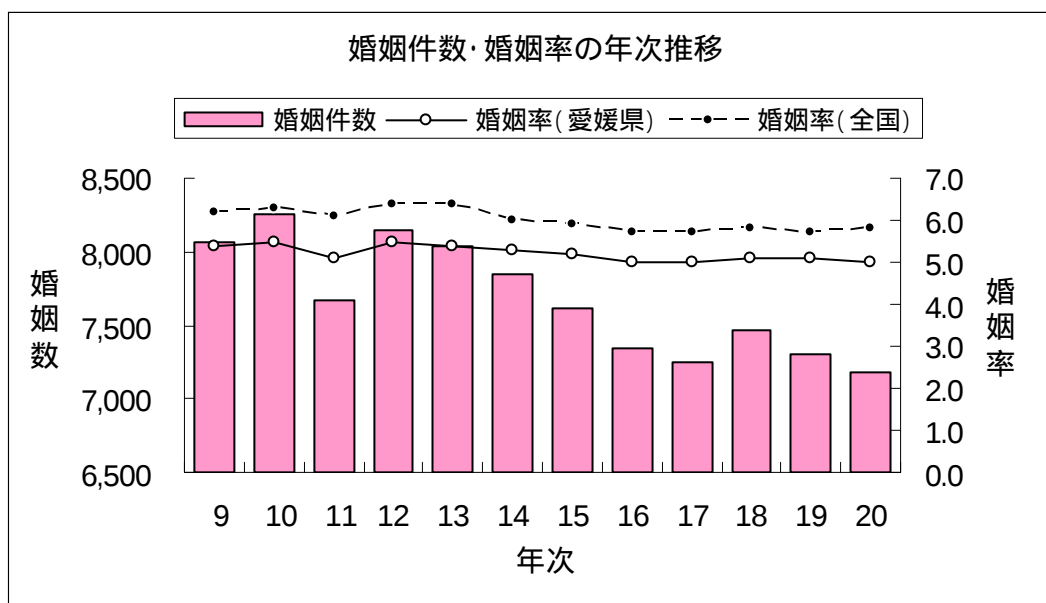
周産期死亡率(出産千対)は、妊娠満22週以後の死産3.5、早期新生児死亡0.3で、
全体では3.9となっており、前年に比べて1.4ポイント減少しました。

全体の周産期死亡率3.9は、全国平均に比べ0.4ポイント低く、四国内では高知県
徳島県についで3番目に高い率でした。

なお、平成7年からは、「国際疾病障害死因分類」(ICD)の改訂に伴い、周産期死亡
における後期死産の定義も「妊娠満28週以降」から「同22週以降」の死産へと変更さ
れました。本書では、平成6年以前にも遡って満22週以降で計算し直した数値を用い
ています。

7 婚姻

平成20年中の婚姻件数は7,175件で、前年に比べて127件減少し、婚姻率(人口千対)は5.0で前年より0.1ポイント下回りました。

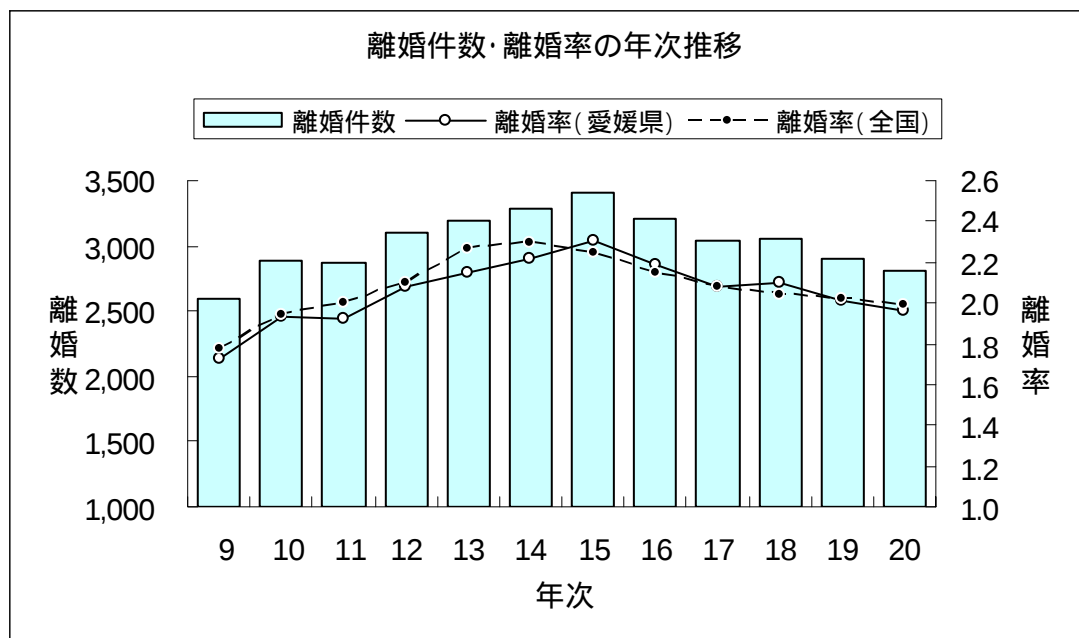


これは全国平均に比べ0.8ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

なお、初婚者の平均婚姻年齢は、夫29.4歳(前年29.0歳)、妻27.7歳(前年27.5歳)となっています。全国では、初婚者の平均婚姻年齢は夫30.2歳、妻28.5歳でした。

8 離婚

平成20年中の離婚件数は2,816件で、前年に比べて82件減少し、離婚率(人口千対)は1.96で前年を0.05ポイント下回りました。



これは全国平均より0.03ポイント低く、四国内では高知県に次いで2番目に高い率でした。